

～「子どもだけど大人」「大人だけど子ども」な人たちへのメッセージ～

LITTLE BIG

第 71 号 2021. 7. 2

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【Pieces - かけらたち - 】 本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。

みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆「縁ってのは、運と時間と想いなんだよ。簡単にできるもんじゃねえ」

『イズナくんは今日も、』（櫻いいよ／著 PHP 研究所 2020. 8 p26）

◆けんかは、とても臆病な解決方法だからよ。どんな議論であれ、相手を傷つけておしまいにしようというんですから。

『兄の名は、ジェシカ』（ジョン・ポイン／著 原田勝／訳 あすなろ書房 2020.4 P140）

◆「わからないよ。でも、わからなくていい。わからなくてよかったと思う。でもね、わかれようとはしてほしいの」

『オン・ザ・カム・アップ いま、這いあがるとき』（アンジー・トーマス／作 服部理佳／訳 岩崎書店 2020.12 p428）

◆わたしと同じものが好きなわけではない。わたしの趣味を否定はしない、けど、共感することもない。でも、これでいいんだ。同じものを好きでなくていい。それぞれが好きなものを持ちよれば、なにか変化が生まれるのかもしれない。

『サード・プレイス』（ささきあり／作 酒井以／絵 フレーベル館 2020.9 p59）

◆自分だってそうだ。自分だって、大事にされてきた。しんちゃんにも、万田ちゃんにも。母親じゃなくたって、自分を大事にしてくれるおとなはちゃんとした。

なんだ、そうか。

母親じゃなくたってよかったのか……。

『拝啓パンクスノットデッドさま』（石川宏千花／作 くもん出版 2020.10 p166）

◆「許すことも、愛の一種だと思うの。もしかしたらそれが、すべてかもしれない」

『卒業旅行』（小手鞠るい／著 偕成社 2020.11 p205）

AI・ロボット

Artificial Intelligence

人工知能



AIは、スマートフォン、ドローン、家電製品等に組み込まれており、私たちの身の回りの暮らしをよりいっそう便利にしています。また、その一方で無人戦闘機などに搭載され、戦争に利用される武器として実用化されてもいます。

改めてAIやロボットとは何かを理解し、未来の暮らしや社会について、もう一度考えてみませんか？

AI・ロボット関連本

『イラストで読むAI入門（ちくまプリマー新書322）』（森川幸人／著 筑摩書房 2019.3）

『ロボットが家にやってきたら…（岩波ジュニア新書867）』（遠藤薫／著 岩波書店 2018.2）

『僕がロボットをつくる理由 未来の生き方を日常からデザインする』

（石黒浩／著 世界思想社 2018.3）

YAの本棚から

中学生や高校生の皆さんや10代の方たちのためのYA(ヤングアダルト)コーナーから、本を紹介します。

『タネの未来：僕が15歳でタネの会社を起業したわけ』

(小林宙／著 家の光協会 2019.9)

小学生の頃からタネや作物を育てること、食文化に興味を持った著者。伝統野菜のタネを探して各地の種苗店を訪ね歩くものの、訪ねる予定だったお店がなくなっていたり、探し求めていたタネがすでに途絶えていたり…。伝統野菜のタネを流通させる仕組みがあればと考えるようになり、中学3年の終わりにタネを流通させる会社を起業します。

種の現在置かれている状況、伝統野菜とは何か、種の奥深い世界がよく分かる本です。自ら知識を広げ、いろいろな人たちと出会い、想いを伝える中で、協力してくれる人たちに感謝しながら、どんどん行動していく著者の姿はとても力強く感じます。



『ティンパニストかく語りき “叩き上げ”オーケストラ人生』

(近藤高顕／著 学研プラス 2017.9)

ティンパニは「第2の指揮者」とも呼ばれ、オーケストラにおいて非常に重要で存在感のある楽器です。しかし、ティンパニストは仲間からテンポについて「早い」「遅い」と板挟みにあったり、とても緊張感のある曲の最後で演奏したりと、とても苦勞の多いパートです。

著者は中学一年生のときに、オーケストラの演奏会に行き、それをきっかけに楽器をはじめて音楽の道に進みました。憧れのティンパニストと話すためにドイツ語の学習を始めたことや、公演中に起こったハプニングなどのエピソードがエッセイ風にまとめられています。



『どこからが病気なの？(ちくまプリマー新書)』(市原真／著 筑摩書房 2020.1)

体によいとされているものを食べれば病気にならない等、今、テレビやインターネット等様々なメディアで、病気や健康についての情報があふれています。そもそも病気の原因は一つではなく、いろいろな要因が複雑に絡まっており、また必ずしも原因があるとも限らないため、そんなに単純な話ではありません。

病気とはそもそもどういうことをいうのか、一から捉えなおして考えてみることで、見えてくるものがあります。病理学者のヤンデル先生こと市原先生が、病気の考え方、病気への向き合い方を提示します。

『女の子はどう生きるか 教えて、上野先生！(岩波ジュニア新書)』

(上野千鶴子／著 岩波書店 2021.1)

家族から、先生から、彼氏から、友達から…。普段の暮らしで何気なく言われたこと、将来についてアドバイスされたことに対して、本当にそれでよいのか、違和感を抱いたことはありませんか？社会は少しずつだけでも大きく変わっています。大人の目、私たちの目。損得ももう少し先の目で捉えてみると全く違って見えてくるかもしれません。

女の子の翼を折らないために…。どこか腑に落ちない日常の個々の疑問・質問に対して、上野先生がわかりやすく整理し、答えてくれます。

